



TOKIO MARINE
e.design

2023年版／2022年度決算

イーデザイン損保の現状

2023

*To Be a **Good Company***

はじめに

日頃よりイーデザイン損保をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

このたび、当社の経営方針、事業概況、財務状況等、事業活動についてご説明するため、ディスクロージャー誌「イーデザイン損保の現状 2023」を作成しました。

本誌が当社をご理解いただく上で、皆さまのお役に立てば幸いです。

※ 本誌は、保険業法（第111条）および同施行規則（第59条の2）に基づいて作成したディスクロージャー誌です。

なお、子会社については該当がありません。



会社の概要 （2023年3月31日現在）

名称	イーデザイン損害保険株式会社	
英文名称	E.design Insurance Co.,Ltd.	
設立年月日	2009年1月26日	
	イーデザイン損保設立準備株式会社として設立	
資本金・資本準備金	586億7百万円（うち 資本準備金293億3百万円）	
株主	東京海上ホールディングス株式会社 N T Tファイナンス株式会社	
従業員数	322人	
本社所在地	東京都新宿区西新宿3-20-2	〒163-1413

イーデザイン損保の現状 2023

目次

トップメッセージ	2
経営理念、ミッション・ビジョン・バリュー	3
(特集) 事故のない社会をつくる取り組み	4
トピックス	6

東京海上グループについて

東京海上グループ概要	8
東京海上グループについて	10

経営について

代表的な経営指標	14
2022年度の事業概況	16
お客さま本位の業務運営方針	17
お客さまの声	18
サービス改善の取り組み紹介	19
内部統制基本方針	23
コーポレートガバナンスの状況	25
コンプライアンスの徹底	26
個人情報の保護	29
勧誘方針	34
リスク管理	35
資産運用	36
情報開示	37
サステナビリティの考え方	38
サステナビリティの取り組み	40

商品・サービスについて

保険の仕組み	48
取扱商品	51
事故対応サービス	52
各種サービス	54

業績データ

事業の状況	56
経理の状況	66

コーポレートデータ

沿革	83
主要な業務、株式の状況	83
会社の組織	86
ネットワーク	87
設備の状況	88
役員の状況	89
従業員の状況	91
新商品の開発状況	92
損害保険用語の解説	93

トップメッセージ



取締役社長 **桑原茂雄**

平素より、イーデザイン損保をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当社は、2009年6月に東京海上グループとNTTグループの提携のもと、通販型損害保険会社として誕生しました。2021年4月には「ミッション・ビジョン・バリュー」を再定義し、新ミッション「事故時の安心だけでなく、事故のない世界そのものを、お客さまと共創する。」の実現に向けて、様々な事業活動に取り組んでいます。

2021年11月に本格発売したデジタル時代の共創型自動車保険「&e（アンディー）」は、おかげさまで2023年4月時点で20万件以上のご契約をいただきました。お客さまをはじめ各ステークホルダーの皆さまのご支援に心から感謝を申し上げます。また、2022年度も過去からの継続取組として、「データで安全を作る」という趣旨のもと、お客さまや地方自治体、企業と&eのIoTセンサーデータと交通安全に関連する各種データを活用した事故削減プロジェクト「SafeDriveWith」や、地域に根差した交通安全の取組みに対しての寄付プログラム「+まち（ぷらまち）」などを実施しました。こうした、事故削減に取り組む当社の姿勢が高く評価され、2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。

2023年度は、&eを通じてお客さま体験の更なる向上を目指すとともに、事故のない世界の実現に向けた取組みを加速させてまいります。

当社はこれからも、お客さまとともに保険業界の新しいかたちをつくることを目指してまいります。

今後ともより一層のご愛顧・お引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年7月

経営理念

お客さまの信頼をあらゆる事業活動の原点におき、損害保険事業を通じて、
お客さまの豊かで快適な社会生活と経済の発展に貢献します。

- お客さまのニーズを最大限に満たす商品・サービスを追求・創造・提供し、安心と安全をひろげます。
- 社員一人ひとりが個性を活かし、創造性を発揮できる自由闊達な企業風土を築きます。
- 良き企業市民として、地球環境保護、人権尊重、コンプライアンス、社会貢献等の社会的責任を果たし、広く地域・社会に貢献します。
- 株主の負託に応え、収益性・成長性・健全性を備えた事業を展開し、企業価値の向上をはかります。

ミッション・ビジョン・バリュー

○ ミッション

事故時の安心だけでなく、事故のない世界そのものを、お客さまと共創する。

○ ビジョン

Create a New Standard

保険業界の新しいかたちを、お客さまとともに。

○ バリュー

究極の安心・安全

(事故にあわない・事故を起こさない)

究極の先回り

(疑問や不安を感じない)

究極の快適性

(カンタン・わかりやすい・迷わない)

究極の For Me

(私にぴったりで心地よい)

特集

データで安全は作れるか？

事故のない社会をつくる取り組み「Safe Drive With」

当社は「データで安全を作る」という趣旨に賛同いただけるお客さまや地方自治体、企業とともに、お客さまの交通安全に関するデータを活用した事故のない社会の実現に向けた分析や研究を行うプロジェクト「Safe Drive With」（以下「SDW」）を展開しています。

「SDW」では、蓄積された運転データから危険な場所を特定したり、ウェアラブルデバイスを活用して健康面から安全運転をサポートしたり、カーライフをより長く安心・安全に楽しめるよう、認知機能の維持・向上を支援したり、事故のない安全な社会の実現を目指して各種取り組みを進めています。

展開中の取り組み

(1) 魔の7歳問題解決を目指す「もしかもマップ」

歩行中の交通事故死傷者数において7歳児が突出して多い状況^(※1)通称「魔の7歳」問題の解決を目指す取り組みとして、親子で道路上の危険箇所を発見しマップ上で可視化するWebサービス「もしかもマップ」を提供しています。約90の自治体から全国で8,000件を超える通学路の危険箇所を提供いただき、利用者からの投稿や警察庁のオープンデータ^(※2)を含めて、58,000件を超える危険箇所をマップ上に見える化しています。(2023年5月現在)

もしかもマップを通して得られた危険箇所のデータは、&eのIoTセンサーから取得したお客さまの危険挙動のデータなどの様々なデータと組み合わせることで、より精度の高いリスクマップの作成につながると考えており、金沢大学 融合研究域融合科学系 森崎裕磨 助教とも小さなお子さまの事故削減に向けた共同研究を進めています。



(2) エーザイ社との業務提携による「脳の健康度による運転挙動の特徴」を解析するプロジェクト

より長く安全に運転を楽しめる社会の実現に向け、エーザイ株式会社が提供する脳の健康度のセルフチェックツール「のう KNOW[®]」^(※3)をご利用いただけるサービスを &e アプリ上で定期的に配信しています。

※1 公益財団法人 交通事故分析センターが発表している「交通事故統計年報」によると、1994年（平成6年）から最新2020年（令和2年）までの26年間にわたって、歩行中の交通事故死傷者数において7歳児が突出して多い状況が続いており、この状況は「魔の7歳」と呼ばれ問題視されています。

※2 警察庁交通事故統計情報のオープンデータ（2020年1月1日・12月31日）による全国の交通事故データ

※3 「のう KNOW」（非医療機器）は、疾病の予防や診断を目的としたものではなく、健康意識を高めるために行っていただくことを目的としています。

「のう KNOW」の実施データと&eの運転データの関係性を分析することで、お客さまの脳の健康度と日常の運転行動特性に応じた新たな安全運転支援サービスの開発につなげていく予定です。



(3)「安全運転者のドライバーモデル構築」を目指した慶応大学との共同研究

当社と慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科では、「交通環境のリスク評価を考慮した安全運転者の行動・習慣に基づくドライバーモデルの構築」に関する共同研究を進めています。本研究を通じ、安全運転者をモデルとして定義し、お客さまに合わせた安全運転支援サービスをご提供することで、交通事故を削減することを目指しています。また、安全運転者が増えていくことで、社会全体のウェルビーイング（身体だけでなく、精神面、社会面も含めた健康）が向上することを目指して、安全運転とウェルビーイングの関係性の研究にも取り組んでいます。本研究成果は、新商品・サービスの開発や企業・自治体への情報提供などに広く活用していきます。

<具体的な研究テーマ>

・危険な交通環境の評価

当社に蓄積された事故データから事故が起きやすい地点や事故形態など、事故につながる交通環境をパターン化し、各交通環境のリスクを評価するモデルを構築します。

・安全運転者のドライバーモデル

事故の起きやすい交通環境において事故にあわなかった運転者の運転挙動や確認行動プロセスを調査し、安全運転者のドライバーモデルとして定義します。

・安全運転とウェルビーイング

事故にあわなかった運転者の行動や習慣、ウェルビーイングを調査し、安全運転とウェルビーイングの関係について明らかにしていきます。

トピックス

HDI格付けベンチマーク「問合せ窓口」で 最高評価の三つ星を獲得

HDI-Japan（運営会社：シンクサービス株式会社、代表取締役CEO 山下 辰巳）が2022年11月2日に発表した、HDI格付けベンチマーク2022年 損害保険業界「問合せ窓口格付け」において、最高評価の三つ星を獲得しました。この格付けは、一般審査員（公募による一般ユーザ）と専門審査員（HDI認定オーディタ、HDI認定インストラクターなどより選抜）が、HDIの国際標準に基づいて設定された評価基準に沿って、顧客の立場から、各評価項目を4点満点で評価し、結果を三つ星～星なしの4段階で格付けしたもので、当社のお客さまサポートセンターの前向きでお客さまと足並みをそろえる姿勢が評価されました。

事故のない世界を共創する 「SafeDriveWith」プロジェクト 浜松市に おける移動寿命延伸に向けた実証実験

当社は、交通安全に関するデータを活用した事故削減の取り組み「SafeDriveWith」プロジェクトの一環として、2021年より「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」に加盟し浜松市の交通課題解決に向けた取り組みを推進しています。当社が提供する健康でエコな移動を促進するスマートフォン向けアプリ「ノルク」を活用した、高齢者の移動寿命延伸に向けた実証実験を浜松市の支援を受けてスタートしました。車以外の交通手段の利用意識向上を目的とした本実証実験を通して、移動手段に対する意識変容を起こすために必要な要素を検証します。今後、浜松市のみならず地方自治体が抱える様々な交通課題の解決に向けたソリューションとしてご活用いただけるよう、サービスを進化させてまいります。

「IT賞」を2年連続受賞

公益社団法人 企業情報化協会（以下「IT協会」）主催の2022年度（第40回）IT賞において、「企業のDXを推進するために、外部人材に頼らずに社内メンバーを軸に築き上げた組織が、わずか1年間で具体的な成果を挙げた同社の取り組みは、まさにデータドリブンに取り組む企業の範となるもの」と高く評価され、「IT賞（トランスフォーメーション領域）」を受賞いたしました。昨年の「IT最優秀賞」に続き2年連続でのIT賞受賞となります。

【受賞テーマ】データドリブン経営を推進するCoEの新設～お客さまとの共創を目指して～



「共創する自動車保険 &e(アンディー)」 2022年度グッドデザイン賞を受賞

「共創する自動車保険 &e(アンディー)」(以下「&e」)が、公益財団法人日本デザイン振興会主催の「GOOD DESIGN AWARD 2022」において、2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。ドライバーの運転のクセや危険予知などをセンサーにより読み取り、ドライバーにフィードバックして安全運転を促す仕組みや、他企業や自治体との共創など、保険会社として事故時の安心だけでなく事故を減らす取り組みに乗り出している姿勢が評価されました。



**GOOD DESIGN
AWARD 2022**